

わが館におけるレファレンス業務必携 の作成について (常滑市立図書館)

原 祐 三

1. 常滑市立図書館とは

地図を開いて愛知県を眺めてみますと、大名古屋市から軽く指を曲げたようなかっこうで、南の方へ伸びている知多半島が見当りましょう。その半島の中ほど西海岸に面して常滑市があります。付近の6か町村が合併して昭和29年に発足した新しい市であります。人口は5万5千、古来やきものを主産業としてきました。市内には小学校8校、中学校4校、最高学府の高校は本年度1校新設されて、計2校となりました。これで当市の文化度も、ほぼご推察いただけます。

この常滑市の中央近くの常滑小学校の玄関わきに、木造1階建平屋の1教室に64m²の書庫をつぎ足しただけの、ささやかな図書館であったのですが、昭和42年に、はからずも、もらい火の厄を受けて書庫の一部が半焼しました。そんなことが口火となって、現代的な図書館を建設しようとの議が起り、昭和45年8月末現在地に建坪778m²延面積1,446m²の、鉄筋コンクリート造り2階建の近代的図書館が建てられました。

建てられた当初は、この働く人びとの町でいくら張り込んで図書館を作ったところで、大してはやりはしないぞ、学生が少しよけいにくる程度さ、といった予想の人が

多くて、私どももそんなものかなあとは思いつつも、それでも近代的図書館としては、どんなところに目標を置いて進めるべきか、いろいろ調べたり考えたりした結果スローガン

市民に愛され親しまれる「市民の図書館」となるよう

重点目標 縦の3か条

- (1) 貸出数を大いに伸ばそう
- (2) 子どもたちへのサービスを重んじよう
- (3) 全地域の市民へのサービスにつとめよう

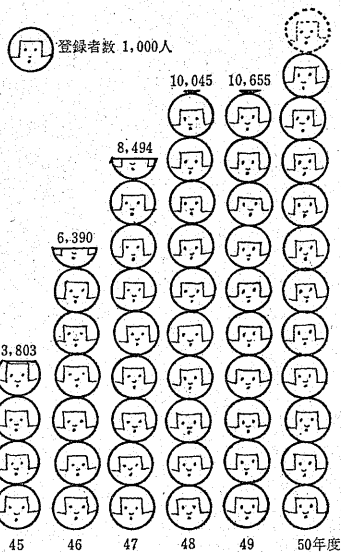
横の3か条

- (4) 郷土の主産業陶業の発展に寄与しよう
- (5) 視聴覚方面の整備充実をはかるよう
- (6) 郷土の大先輩谷川徹三先生コーナーを完備しよう

こうした目標を掲げて、昭和45年10月に開館、移動図書館「あおぞら号」も10か月後で発足することができました。館員一同ひたすらにがんばりました。

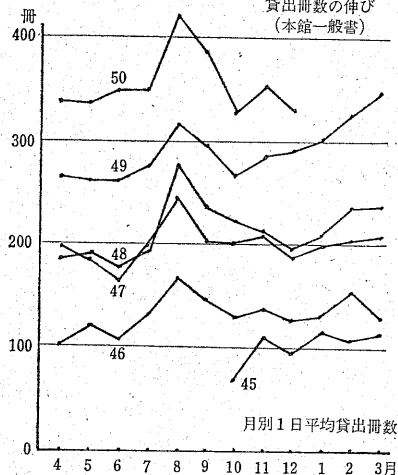
ところが、全く予想に反して図のよう一年一年うなぎ上りに上がってきました。最初に掲げた目標が、正しく実現してきました。このように数字的に大きく伸びてきましたのは、市当局の深い理解と厚い信頼

登録者数の伸び



人口の 7.0 11.8 15.4 18.2 19.2%

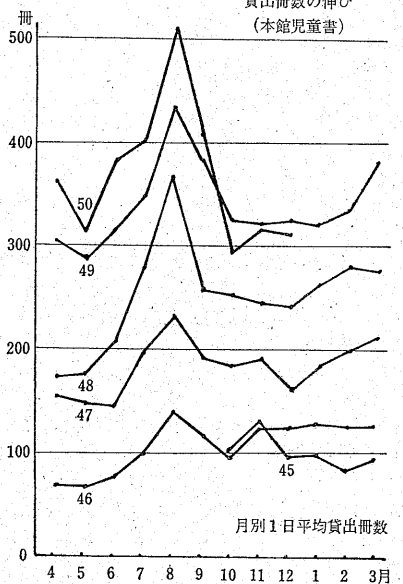
貸出冊数の伸び
(本館一般書)



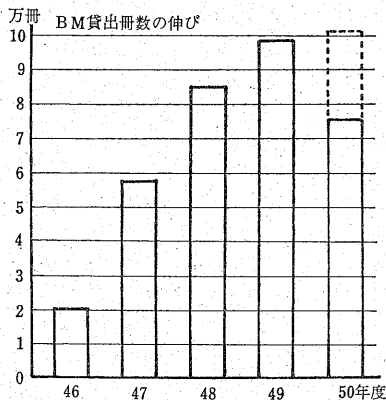
総貸出冊数

年度	本館一般書	本館児童書	BM	計
45	13,752	13,918		35,284
46	36,347	29,810	20,022	86,132
47	53,791	49,868	57,761	161,420
48	58,296	69,378	84,898	212,572
49	80,384	94,371	98,714	273,469
*50	74,056	76,740	75,078	225,876
	(102,500)	(102,400)	(101,000)	(305,900)
付記	* 印は4月から12月までの9か月の計 () は年度末の推定数 下の数は市民1人当り貸出冊数 45 46 47 48 49年度 0.6 1.6 2.9 3.8 4.9			

貸出冊数の伸び
(本館児童書)



の支えがあったからに外なりません。図書費職員数等の財政的人的裏付けの表は、それを雄弁に物語っていきましょう。それともう一つ、自画自賛になるので余り声を大きくは申し上げにくいのですが、内心では大いに確信をもっていること、それは館員が利用者に対して、愛想がよく親切で多くの市民からも好かれていることでもあります。これも、当館の飛躍的発展の有力な一因をなしていると思います。これについては、次節で詳記します。



	図書館費	図書費	逐次 刊行物費	職員数 (増減)
	千円	千円	千円	名
45	決 146,494	4,165	162	5 1月 + 1名
46	決 25,510	5,923	548	8 4月 + 2名, 12月 - 1名
47	決 22,830	5,682	594	9 4月 + 2名, 6月 - 1名
48	決 31,400	7,815	570	9 4月 + 1名, 7月 + 1名
49	決 40,753	7,938	855	11 4月 + 1名
50	予 43,129	8,000	855	12 4月 + 1名

2. 貸出しの幹にレファレンスの枝

時どき私は利用者に、当館に対する所感を聞いてみます。サービス姿勢についての所感が多いですが、その中の1つ2つを—

「私たちのように、旧館時代からこの図書館になじんでいる者にとっては、手続きも簡単になったし、蔵書も飛躍的に豊富になったし、結構づくめで心から喜んでます。新館になって初めて図書館を利用するようになった人たちは、図書館とはこういうものかと簡単に受けとっているかも知れないが、私たち新旧の差がはっきりわかっているものは、有難さが身にしみる思いです。」

「カウンターに出でおられる館員の方はほんとに感じがいいですね。いくら忙しい

中でも、上巻を読み終って返しに行くとき『下巻も入っています。よろしかったらどうぞ』といったようにことばをかけて下さいます。私は、銀行に勤めていますので、お客さんにはとても気を付けています。ですから、この図書館のサービスの行き届いていることが、とてもよくわかります。お役所関係であるのに、こんなにサービスに努力していらっしゃることに感心します」

こうした利用者の声を聞くと、私どももほのぼのと明るくなります。又館員たちも「私たちは商売人と同じで、一度来館した人を逃がさないように、何度も足を運んでくださるようにしましょう。第一印象が大事だからね」などと話し合っています。又「私たち児童室係を、図書館のお兄さんお姉さんと呼ぶようにしているのは、子ども

たちと同じ立場に立って、同じ人間同志として、子どもたちとしゃべったり遊んだりする温かい楽しいふんい気の中で、本にめぐり合わせ、本当の本好きにさせたいからです。子どもたちの興味の何であるかを知って、それにこたえられるよう、私たちが勉強を重ねているんですが……」など、眼を輝かしながら申します。こうした館員のサービス態度は、もう当館の館風になっています。このサービス姿勢が、図書館運営の面にも、おのずから表れてこないではいられません。

「僕の友人から『ああ、海洋特年兵』という本に、僕のことが少しではあるがのっている」と聞き、又その本がこの図書館にあるそうなので、矢も盾もたまらず駆けつけてきました。初めてきたので、どこにあるのかさっぱりわかりませんが……」館員は目録カードで請求番号を調べて、書架へ行ったがあいにくありません。「残念ですが貸出中のですね。予約しておきますから。返ってきたらすぐに連絡いたします。しばらくお待ち願います」「どうもお世話をかけました。どうぞよろしく願いたします」

「返却ですが、お願いします」鳥好きのMさん、例によって鳥の本を返されました。館員「最近『野の鳥の四季』という野鳥の写真集が入りましたが、ご覧になりませんか。出したらさっそく貸出しになりましたので、今はありませんが、予約しておきます。返ってきましたら電話でご連絡いたしましょう」——こうした調子で予約も受け付けています。昭和48年10月から記録を開始、48年度56件、49年度2,482件、50年度12月までに2,150件に及んでいます。

「こういう本がありますか」……中年の婦人が、カップボックスの民法の本をカウ

ンターへ持ってこられて……「民法の本です。こちらにありますからきてください」開架書架へ……「こういった種類の本は専門的学問的な本が多いですがよろしいか」「はい、結婚についての法律的なことなどのついている本が見たいんですが……」知りたい内容についてはプライバシーに関する事なので、詳しくは聞かず4,5冊の本を取り出してしまいました。

「新美南吉の本はないでしょうか」……中年の婦人が3人児童室にみえて……「子どもさんが読まれるのですか」「いいえ私たちです」「じゃ、これはどうでしょう」新美南吉全集6冊をもってきて……「始めて読むのですが、どこから読んだらいいでしょう」「全集ですので、この通り、詩もあれば、日記、小説、童話、物語などいろいろありましょう。この中で、自分の一番面白そうなのからお入りになって、それから又、次に面白そうなのを読んでというようにお進めになると、無理がなくていいじゃないませんか」……こういう調子で、読書案内、読書相談も進めています。

「この館員の方は、ほんとに親切ですね。私、この頃江戸時代の人形をいろいろ作っているんです。その1つに、お高祖ずきんの女の人形も加えてみようとしたんですが、お高祖ずきんのおよそのことはわかっていても、一部分どうにもはっきりしないところがありました。それで図書館へ来てみましたところが、どの本でどう調べたらよいかよくわかりません。館員の方にお尋ねしたら、さっそく座を立ててあれやこれやご親切に調べてくださいました。おかげで、とてもはっきりわかることができました。ほんとうにうれしかったです」——これが当館のレファレンスのプロフィールの1つ。このように館員たちはサービス精

神をみなぎらせて、レファレンスも進めています。

このように、サービス精神に徹して貸出しを推し進めてゆくと、おのずから、予約も、読書案内・読書相談も、レファレンスも生じてき、伸びてくるものだと思います。植物に例えてみますと、サービス精神の根をしっかりと張って、貸出しの幹を太らせてゆくと、そこからひとりで、予約制の枝も、読書案内・読書相談の枝も、レファレンスの枝も伸びてきて、美しい花も咲きよい実も生じてくるもののように思います。読書案内・読書相談とレファレンスの境目をはっきり区別することはむづかしく、むしろ読書案内・読書相談はレファレンスの中に包摂して、考えるべきである、といわれていることは、ご存じの通りであります。

す。となりますと、私どものような第一線の中小図書館においては、サービス精神を根とする貸出し幹には、必ずレファレンスの枝が大小遅速の差はありますが、知らず知らずのうちに、伸びてき茂ってくるものであると、申してよいのではないかと考えています。

3. レファレンス業務必携の必要性とその基本的条件

下表のように、私どもの館はよく利用され館員も多忙をきわめています。

こうした忙しさの中にかかわらず、館員は自発的に昭和47年1月からレファレンスの記録を開始して、46年度29件、47年度57件、48年度173件、49年度266件、50年度(4月～12月)164件の記録を残してくれ

昭和49年度 当館の各部における仕事の量

	管 理	庶 務	2 階 一般を対象とする部	階下 児童室 児童を対象とする部	移動図書館の部 (あおぞら号)
員 数	館 長 係 長	1	4 (図書)	1 (逐刊)	2
主な仕事内容とその達成した数値		年間取扱金額 17,237千円 文書事務	整 理 年間受入冊数 4,372冊 受入雑誌種数 92種 受入新聞種数 39種 奉 仕 貸出延人数 35,936人 貸出総冊数 80,384冊 展 示 会 年間開催回数 36回	整 理 年間受入冊数 2,430冊 奉 仕 貸出延人数 31,220人 貸出総冊数 94,371冊 なかよし 子ども会 年間開催回数 42回	整 理 年間受入冊数 2,646冊 奉 仕 出勤回数 168回 貸出総冊数 98,714冊
備 考	移動図書館は毎回他の部より1名支援し3名にて出勤し各部とも相互に協力応援し合う体制をとっている				

ました。レファレンスの実数はこれよりもはるかに多いわけですが、簡単なものは省略したり、多忙のために記すことができなかったり、レファレンスに該当せずとしたりしながら、これだけの記録を蓄積してきた、このレファレンスの記録を眺めてみると、これ程の忙しさの中で、よくまあこれ程にいい回答ができたものだと、その努力のほどに感心せずにはいられない記録も多々あります。中には耕やしの十分ではないものも見受けまますけれども、この多忙さの中で、レファレンスを専門とする者ではなく総合的にあれもこれもやらなくてはならない館員の身にとって、これは当然のことであって、十分な要求を期待すること自体が無理難題ではないか、この記録をとっておいてくれただけでも尊いことではないかと思えます。新しい職員が次から次へと加わってくる関係で、不十分な解答で終わったものもあります。これも又、いくらサービス精神が旺盛であっても館員となって半年や一年で何百何千何万の本を知ることは絶対にできません。「Iさん、このようなレファレンスがあるのだが、どうしたらいいの」と、多年練磨の館員に聞いている職員風景もよく見受けまます。これらを総べて、見すごしていくことはできません。せっかく積み重ねたこの記録を土台とし足場として、当館のためのレファレンスの手引——業務必携を作ることができたら、どれほどレファレンス業務がしやすくなり、能率的効果的となり内容的に充実し、よりいっそう愛され親しまれ、厚い信頼も受けられることになるであろう、数的発展から質的に深化向上することになるのだ、とこう考えてきますと、レファレンス業務必携はどうしてもなくてはならない、当館にとって必須のものであると思われまます。では、

その必携作成の基本的条件はどんなことでありましようか。

基本的条件

- (1) 中小図書館の当館にも、もうかなりの参考図書、一般図書が備え付けられてきたし、なお日々充実整備に努力している。これらの参考図書・一般図書を十分に使いこなさなくては、せっかく深く理解し信頼して出資してくれている市当局にも、又幾多の優れた参考図書を蓄積しておいてくれた先輩にも申し訳がない。
- (2) いくら図書館には初心者職員であっても、やる気がある以上、少しく誘導・手引を受ければ、100%満足とまではいなくても、6~70%から80%までの回答ができるようにしたい。又そうすることによって、館員としての興味も深かまり自信もできてくるのではないか。
- (3) 今までのレファレンスの記録を十二分に活用して、その基盤の上に、この土地の文化度にふさわしい実質活用性のあるものにしなければ、作っても意義が乏しい。見栄をはって、いたずらに高さを求めてはならない。
- (4) 先人の開拓された幾多のレファレンスに関する業績が、さん然として光り輝いている。この先人に対して心から敬意を払いながら、その先人、先輩の業績に大いに学び大いに採り入れさせてもらおう。
- (5) レファレンスの筋道・ツボをはっきり把握したいものである。そこにたくましい応用力、力強い発展性も生じてくるであろう。一を聞いて十を知る知恵も、育ってくることになるではないか。
- (6) 最初から高さを望むことはできない。いかに次元の低いものであってもいい。とにかく自分たちの力でやってみて、そ

れを踏み台にして次の発展・展開をすればいい、最初の足場がかりを作ることが大事である。

- (7) 中小図書館における参考図書のコレクションはいかにあるべきか、これはなかなか難しい問題である。しかし、われわれの土地柄文化度にあったコレクションの構想は、あるべきはずのものである。これを摸索しながら築き上げてゆこう。
- (8) 利用者が、図書館で調査研究をしているが、どうも難渋をしているのではなからうかと思われる人を往々見受ける。そんな時、館員はちゅうちょすることなく進んで近付いていき「何かお探してしょうか」などと和やかに温かくことばをかけている。こうした時さらに「図書館で作って見たんですが、ご参考になりましたらどうぞ」と気安く配り、利用者も又便利重宝するような、自学自習の手引「図書館での調査研究の友」（能率的効果的な調べ方）を作ったら、どれほど積極的な前進建設となることか。およそこのような基本的条件のもとに、当館のレファレンス業務必携を作ってみよう。

4. レファレンス業務必携の構想

次に、上記のような基本的条件のもとに、どのような構想で、どこに重点を置いて、どのようにふうを払って作ろうとしているのか、そのアウトラインを申し述べましょう。

第1章 当館には多年ベテランの館員からきわめて初心の館員まで、いろいろな段階の館員がいます。今後始めて館員となるものことも考えにおいて、レファレンスとは何であるか、どのような心がけが必要か、参考業務規程ではどうなっているか、それは又なぜかなど、基本となる総論的な

ことを、幾多の先輩が開発され確立され明示されているところに、大いに学んでまともてみようと思っています。又 当館の職員の間で守り合っているよい伝統も、付記しておきたいと思います。

第2章は「業務上の参考問題」昭和47年以来当館において蓄積してきた問題を主軸として、将来提出を予想される問題を全国 SLA「図書館学演習資料」、村上清造編著「図書館通論」、JLA 仕事シリーズ「レファレンス・ワーク」、長沢雅男著「レファレンス・ブック」などから拾い出す。書名や著者名を申し出て、当館の所蔵の有無を調べて貸出しするような簡単なものなどは省略します。又余り高程度で、当館ではとても出そうもないものは除きます。そしてそれを整理して500題ほどにまとめ上げ、これを当館のレファレンスの基本的参考問題といたします。いずれも当地の文化度にマッチしたもの、ないしはそれを少し上回る程度のものにとどめます。

第3章は、500題の基本的参考問題に対して、当館現有資料によって回答する具体的な原拠、すなわちどの本のどこに出ているかを示しておく。これは業務必携の作成に当って、最も多くの時間・手間を要する部面であります。1つ1つの問題を掘り下げ研究をしていると、小規模な当館ではあるが、この問題に対しても、こんなに豊富な資料があったのかと驚くことがままあります。巨視的な眼を、微視的な眼に切りかえるわけであります。将来の館員たちにとっても利用者にとっても、いい参考になるように、目下最善の努力を傾中していますが、いくつもの見落としもありましょう。又、新しく次つぎに入ってくる資料にもとずいて、補充修正をしなくてはならぬところも多々ありますが、とにかく現状でベス

トを尽すのみと思います。なお又、現在私どもが承知している、又つかみ得たレファレンスの筋道、コツなどについても、ところどころに織り込んでいく心組でいます。

第4章には、当館における現有参考図書の一覧表を掲げます。この一覧表を作ってみますと、参考図書の書架に配架してあるものの外に、一般用書架中の本でも実に適切な参考図書となるもの、閉架書庫中の参考図書及び参考業務に適当な本、事務用図書にしてあるものなど、いろいろありますので、それを一目で把握できることは、ずいぶん便利なことだと感じます。ましてや、初心の館員には有難い存在となることでしょう。この一覧表のそれぞれの本に、的確な解説を添えることは望ましいことではありますが、私どもの力では到底できません。幸いにして、JLAの「日本の参考図書 改訂版」「日本の参考図書 補遺版」や長沢雅男著「レファレンス・ブック」、佃実夫・稲村徹元編「辞典の辞典」などの好著がありますので、それを拝借して何ページを明記して、参照の便をはかります。明治～大正年間に発行された本で、これらの著書の中で解説されていないが、実に絶好の参考図書を数冊先輩は当館に残しておいてくれましたので、それについては当館で解説を付します。こうしてすべての参考図書について一応の解説をみるのが手軽にできることは、館員特に初心の館員にとって、本館に現有する参考図書に対する基礎的な知識を固めることができることとなります。さらに、これらの解説書にのっており、当館にも現有の参考図書には、当館の請求番号を記入して、当館に現在していることを一目でわかるようにして、館員の研究の便をはかります。以上のようにして現有参考図書一覧表を作ることによっ

て、当館に不備な部分も、又おのずから明らかになってきて、今後の補充計画を立てることもできました。

第5章には、当館では解決できなくて、他館又は他の機関に依存して、はじめて解決することのできた諸問題を第1に掲げます。このことによって、当館における解決の限度をたやすく認知することができるからであります。次いで、当館としての類縁機関の一覧表を、掲げる心算であります。類縁機関の範囲は、常滑市内はすべて網らするよう努力します。知多地方から名古屋においては、その主要なもののみにとどめます。もとより完ぺきを期することはできません。今後幾多の追加修正を必要とするでしょうが、今後の発展の足場とするために、現時点で可能なかぎりの情報収集を図るわけであります。

第6章には、図書館における自学自習の手引「図書館での調査研究の友」を、載せたいと思います。これはもちろん、利用者のためにもするのでありますが、同時に館員のためにも、考慮に入れているのであります。この友は、一般成人から高校生・中学生が理解できる程度とし、1テーマを半紙1枚の中におさめ、チラシのようなバラ刷りも作って、利用者に自由にもって行って読んでもらい活かしてもらいたいのであります。又、必携の中にも綴じ込んで、館員研修の一助にもしたい意向であります。今のところ2つか3つのテーマで試作し、利用者の反応を確かめてみて、好評ならば、次のいろいろなテーマで続刊いたしたいと思います。修正を必要とする箇所が生じたら、すみやかに修正を加えて愛され信頼される「友」にしたいと思います。これは図書館利用指導への1つの試みであります。

5. レファレンス業務必携の具体相

今まで業務必携のねらいや構想などについて述べてきましたが、さて実際はどのような内容にするのか、以下述べたいと思います。ただし、第1章の総論、レファレンスとは何であるか、レファレンスの心得、参考業務規程ならびにその解説などは、すでに多くの先輩によって明示されておりまして、私どもはそれを拝借するのみでありますから、わがもの顔にあえてここに掲げて、皆様方のご高評を仰ぐことではないと思っておりますので、省略いたしまして、第2章以下の具体的なすがたを載せたいと思えます。

[1] 業務上の参考問題(部分例)

常 当館において昭和47年来蓄積してきた問題

演資 「図書館学演習資料」 全国学校図書館協議会よりの問題

図通 「図書館通論 地方図書館員のために」 村上清造編著よりの問題

RW 「レファレンス・ワーク」 小田泰正編よりの問題

RB 「レファレンス・ブック」 長沢雅男著よりの問題

探索 「文献探索学入門」 佃実夫著よりの問題

4類 自然科学

<数学>

411 数のよみ方で、百、千、万、億というがその上の大きい方のよみ方 (図通)

412 計算尺の利用法の解説を見たい(常)

413 レーダーチャートの書き方を知りたい (常)

414 中国型算盤の歴史とその使用方法を知

りたい (探索)

415 旧1升ますの内のりを教えてください (RW)

<物理学>

421 水の体積は摂氏4度になると最小になるといふがなぜか (探索)

422 波の種類について知りたい (演資)

423 1原子量のエネルギーはいくらか (演資)

<化学>

431 デキストランの化学記号を見たい (常)

432 鉄の種類とその用途について知りたい (常)

433 石油1キログラムのカロリーはいくらか (探索)

434 たん白質は何種のアミノ酸からなっているか、栄養上有用なのはどれか (図通)

<天文学>

441 コホーテのすい星の写真を見たい (常)

442 地球と火星の間の距離を知りたい (演資)

443 木星について調べたい、また木星型の惑星にはどんなものがあるか (演資)

444 地球儀をとりつけるとき何度傾けたらよいか (RW)

<地学>

451 10月1日から20日までの間の過去数年間の台風の発生状況は (探索)

452 世界各国の月平均気温を知りたい (演資)

453 海洋と気象の関係を調べたい(演資)

454 今までの東京の大地震は何年何月何日で、震源地の位置はどこか(図通)

455 どんな鉱物が宝石になるか知りたい

(演資)

456 日本に氷河はあるか知りたい(演資)

<植物学>

471 甘草とは何か (図通)

472 ブドーの葉の正確な図を見たい(常)

473 帰化植物について知りたい (常)

474 ゲンチオピクリンを成分としてふくんでいる植物の名前を知りたい

(RW)

<動物学>

481 イルカの写真のできるだけかわいいのを見たい (常)

482 かじかの飼い方について知りたい(常)

483 山羊と羊の動物学的な区別を知りたい (探索)

484 ライオン、ヒョウ、虎、象が現在の東京地方に現われたのはいつか(RW)

<医学・薬学>

491 人体図のくわしいのを見たい (常)

492 1人1日当りの水の必要量を知りたい (RW)

493 脳軟化症とはどのような病気か(常)

[2] 現有資料による回答の原拠(部分例)

<日本史>

2115 菅原道真と牛の関係について知りたい

道真については、百科事典、人名事典、日本史辞典、伝記など非常に多くの本にのってはいらるが、そのどれにも牛との関係についてはふれていない。道真をまつている天満宮の境内には牛の銅像があり、多くの参詣者に撫でられて黒光りしているのを見受けることから、天満宮の本で探すと、詳述されていた。

大宰府天満宮 閉175—8 205~206p.

詳細

2116 江戸八百八町といわれるが、実町数

を知りたい

まず、ことばの方面—江戸八百八町、八百八町—から入ってみると—

広辞苑 参813—34 1802p.

角川古語辞典 参813—47 188p.

日本国語大辞典 参813—57—3 202p. 16 330p. かなり詳しい

大言海 参813—30 1598p.

次に歴史の方面から調べる。索引に江戸八百八町、八百八町の項目ではないので、大きくとらえて、江戸で調べてみると—

角川日本史辞典 参210—218 120p.

世界歴史事典 参203—4—3 12p.

やや専門的な事典で調べる。索引にて江戸八百八町を引き、江戸の市政の項へ時代考証事典 参210—181—A 302~303p. 詳細

江戸時代図誌 江戸1 210.5—19—4 151~170p. 専門的に詳述

単行本の中で探してみると—

日本歴史故事物語 210—194 120p. 詳細

2117 明治時代の警察について知りたい

まず歴史事典の索引で、警察制度の見出しで探してみると—

日本歴史大辞典 参210—52—4 195~196p. 歴史的に概観

世界歴史事典 参203—4—6 120~121p. 同上

次に、大百科の索引から、警察について調べてみると—

大日本百科 ジャポニカ 参031—1—6 475~476p.

世界大百科 参031—22—7 168~171p.

なおつづいて明治史での警察について調べてみると—

図解日本庶民生活史 閉210—144—7

200～201p.

写真図説近代日本史 閉210—136—1～12
全巻に散見

新聞集成明治編年史 2106—16—1～15

第15巻の索引によれば資料多数

単行本の中で探してみると——

警察今昔物語 御用提灯から機動隊まで
317—39

明治時代警察官の生活 380—12—28

2118 忍者の装束を知りたい、なお刀を背
に負っているときの姿を知りたい

まず、小百科から大百科によって忍術
についての知識を整理すると——

新世紀大辞典 参031—5 1491p.

小百科事典 参031—41 1056p.

世界大百科 参031—22—17 432p.

大日本百科ジャポニカ 参031—1—14
192～194p. 詳細

やや専門的に進めて——

社会科学大事典 参303—5—14 341p.

忍者の項あり

時代考証事典 参210—181—A 385～
394p. 忍者・忍者考の項

単行本にて探すと——

忍者の生活 380—12—2

江戸時代武士の生活 380—12—1 235～
248p. 忍者と隠密

現代コミック6 白土三平集 726—6—6
各所に散見

柳生武芸帳 閉913—726—1 105p.

カムイ伝 726—32—1～21 各所に散見
<地名>

難読地名—何県にあるかも不明の場合

日本地図帳地名索引 小川啄治著 成象
堂 大12 閉291—3 頭字画引 難読
地名彙

難読辞典 中山泰昌編 東京堂 昭48
参813—64 第2部(姓氏・地名) 433～

500p.

大辞典 平凡社 昭9 参813—9—1～26
26巻索引 付録 頭字難訓索引 1～
106p.

コンサイス地名辞典 日本編 三省堂
昭50 参291—321 付録 難読地名
総画引き漢字索引 1～43p.

難読地名—何県にあるかわかっている
場合

市町村大字読方名彙 小川啄治著 成象
堂 大12 閉291—4

日本地名事典 渡辺光 朝倉書店 昭30
参291—25—1～3

新日本分県地図 国際地理協会 昭48
参291.3—21

大日本分県地図並に地名総覧 昭47
参291.3—8—47

日本交通公社 全国旅行案内 291—249
日本交通公社 最新旅行案内(シリーズ)
291—292—1～19

山と溪谷社 アルバインガイド(シリー
ズ) 旅—1—1～40 など

291.0 木曾福島の町の歴史について知りた
い

まず、いろいろな百科事典で調べてみ
ると——

世界大百科 参031—22—19 217p. 遺
跡について述べてある

大日本百科 参031—1—5 425p. 同上
ブリタニカ 参031—39—2 244p. 同上

次に、地名事典にて調べてみると—
日本地名大事典 参291—16—4 153p.

簡単な歴史

日本地名事典 参291—25—2 308p.

教材国土現勢誌 参291—17—2 中部地
方 537p.

一般書にて調べてみると——

長野県の歴史 210—28—20 木曾義仲
70～75p.

日本史探訪第5集 210—49—5 木曾義仲 49～72p.

日本武將列伝1 源平鎌倉編 281—48—1 木曾義仲 127～140p.

日本の武將6 木曾義仲 閉281—45—6 詳細

図説日本文化地理大系9 中部1 291—72—9 木曾路 154～156p.

[3] 現有参考図書一覧表(部分例)

解説書の略号

S65 「日本の参考図書 改訂版」における固有記号

1R23 「日本の参考図書補遺版」における固有記号

RB95 「レファレンス・ブック」(長沢雅男著)における所載ページ

DD67 「辞典の辞典」(佃実夫・稲村徹元編)における所載ページ

社会科学

<民俗学>

事典参380—3 民俗学辞典 柳田国男監修 東京堂 昭26……………N62

参380—14 民俗の事典 大間知篤三外編 岩崎美術社 昭47……………RB129

参382—13 日本を知る事典 大島建彦外編 社会思想社 昭46……………DD217

地図参380—9—1～4 日本民俗地図 同解説書 文化庁編 国土地理協会

年中行事から信仰, 社会生活, 交易, 運搬等に至るまでを90枚の地図に類別収録し, それを4冊の解説書で詳細に解説している。なお100ページにわたる図録に600余枚の写真のせてわかりやすくしている。

資料参210—10—1～20 日本庶民生活史料集成 三一書房 昭43～48……………1N50

参380—2—1～19 日本民俗学大系

平凡社

日本民俗学についてその成立展開からはじめて, あらゆる分野に及んで最も体系的にのべられた好資料である。

参380—15 沖縄文化史辞典 琉球政府 東京堂 昭47……………DD53

<風俗>

事典参380—8 風俗辞典 森末・日野西編 東京堂 昭45……………N81

参2105—7 江戸編年事典 稲垣史生著 青蛙房 昭41……………1H65

図録参382—4—1～5 絵巻物による日本常民生活絵引 角川書店……………1N53

参210—38 有職故実図鑑 河籬実英編 東京堂 昭46……………(N89)

閉383—2 日本風俗写真大観 江馬務編 誠文堂新光社 昭11

古代から幕末に至るまでの風俗をモデルに正確にふん装させて, その昔をそのまま再現して撮影した, 14枚のカラー写真と500枚のモノクロ写真に, 解説をほどこしてある。改装製本されている。

721—34—A～C 職人尺 名古屋タ イムズ社 昭46

重要文化財の狩野吉信筆の「職人尺図」(川越・喜名院蔵)24図であって職人, 庶民生活が精妙にえがかれている。

[4] 他の機関に依存して解決した問題と類縁機関(部分例)

1類の1 ①仏教における時間論 ②印度古代仏教史地図 ③西域考古図譜(上・下)を見たい。

愛知図書館に問い合わせたところ, ①②はないが③は同館蔵書中にあるので, 来館すれば閲覧することができるとの回答

を受ける。

愛知学院大学に問い合わせたところ、①②とも同大学にはないが、①は同朋大学の蔵書中にあるとの回答を受ける。同朋大学に問い合わせたところ、いつ来館してもよいというわけにはいかないとの由。

②は県内のどの図書館にもない。

5類の3 野バラの根っ子でパイプを作りたいが、参考資料はないか。

当館には関係の本はない

愛知図書館に問い合わせたところ「パイプの話」の本で調べたが、作り方はのっていないとの回答

本館の雑誌で探したところ、文芸春秋の広告欄にパイプ会社がのっていることがわかり、本人から同社に直接問い合わせてもらふことにする。

6類の2 一般家屋の屋外、セメント壁面に「つた」をはわせたいが、適した「つた」はどんなものか。

当館には適当な資料がないので、愛知図書館に問い合わせたが、同館にも適当なものはないとの回答のため、名古屋市の東山公園植物園の所在地及び電話番号を知らせて、本人から直接たずねてもらふ。

7類の3 動物マンガ、できればアメリカ「チャーリーブラウン」がみたい。

当館には全くないので、名古屋市のアメリカン・センターの所在地と電話番号を知らせて、本人から直接同センターに問い合わせてもらふ。

7類の4 クリスマス・ツリーやプレゼントなどにかざるステッキ（赤と白）のいわれを知りたい。

当館の資料では見当らなかったので、半田のルーテル教会に問い合わせたところ下記のような詳細な回答をいただく。

聖書には、つえがいくつも出てくる。

出エジプト記 モーゼが神様からもらう奇跡が行なえるつえ。

予言者エリアがもつつえ、水ききのとき岩をたたくと水がわき出る。

ヨセフはつえをもち、マリアを守っている。

イスラエルの民は遊牧民、羊飼いはつえで羊を守る、羊はイスラエルの民を表す。

要するに、つえは神が民を守るために与えたもの。

8類の1 「鰻」はなんと読むのか。

当館の大漢和辞典その他の漢和辞典にもないので、愛知図書館に問い合わせる。

「日本魚名集覧」(角川書店)にあり、はや、はえ、ふぐ、ふぐべの4つの読み方があるとの回答を受く。

類縁機関については、まだ調査不十分で、ここに掲げるほどに至っていないので省略する。

[5] 図書館利用指導——自学自習の手引

図書館での調査研究の友

Sさんと百科事典

図書館の常連の1人に、Sさんというすばらしい方がいます。そのSさんは長年百科事典と親しんでいて、毎日1回以上、百科事典を引いてみないと虫が治まらない、という方です。そのSさんに、百科事典の使い方について聞いてみました。

「私たちは、自分では何でもよくわかっているように思っていますが、いざとなると存外わかっていない。わかっていても、生かじり半わかりのことが多いものです。私は中学生のころから、百科事典を親友にしまして、1日に少なくとも1題できれば2題3題4題の問題を、この親友の百科事典を相手に調べてきました。今年で12年

目になります。

どんなふうにやっているかですか……それは、職場や友だちや家族と話し合っているときなどにフッと『——とはなにか』といったような問題が湧いてくるでしょう。又電車やバスに乗っていて、ふと目に触れたものから『なぜ——』といったような問題が湧いても来ましょう。本を読んだりテレビを見ているときにも、いろいろ問題が湧いてきますね。それをいつも持っている手帳にちょっと書きとめておいて、書齋の百科事典に向かいます。百科事典を開く前に、その問題について、現在自分がどこまでわかっているか、心の中で整理してみ、それから百科事典をわくわくしながら開いて見るのです。なる程なる程と胸にしみ込む思いです。

私は簡単なことでも、いつも2種類の百科事典で引くことにしています。発行所の違う2種類の事典を引てみますと、記事をそのままのみにせず、よく考えよくこなし、自然に自分のものになってきます。又、それぞれの事典の長所が、私の心の中で生きてくるように思います。

それから、私はカードにまとめ上げてい

ます。この段階で、この問題が確かに自分のものになってきたなあという実感が湧きます。そのカードも、もうこんなに一両手を広げて—たまってきました。分離して箱の中に入れておき、必要なときに開いてみるのです。たまってきますと楽しくて楽しくて又続けずにはいられません。自分が作って、きた百科カードはかわいいですよ。

私どもの通常のくらしの上では、さほど深いものは必要ではありませんので、自分の消化力に相応した、小百科から中百科までを多く使っていますが、ときには大百科に進むこともあります。小百科や中百科などは、ほんのちょこちょことした、こま切れの知識で大したものではないように思っている人もいますが、どうしてどうして、そうした事典の筆者の幾十人幾百人の学者や専門家たちが、それぞれの知恵をしぼって、エキスのエキス、基本の基本、もとのもと、として書き上げているのですから、たとえ短かくても尊いものだと思えますね。」

と、眼を輝かせながら話してくれました。Sさんのように、とてもやれませんが参考になることがいくつもあります。

当館2階にある百科事典のいろいろ

事 辞 典 的 典	広辞苑 全1巻 岩波書店 参813—19 (20万項目収録)
	日本国語大辞典 全20巻 小学館 参813—57 (50万語収録)
	大辞典 全26巻 平凡社 参813—9 (60万項目収録)

この3冊はことばの辞典ではありますが、人名・地名・書名・事件など百科事典的なことまで幅広く収録してあって、問題を考える第1歩をここから進めると滑り出しがよいでしょう。

小 百 科	学研新世紀大辞典 全1巻 学習研究社 参031—5 (10万7千項目)
	小百科事典 全1巻 平凡社 参031—41 (5万7千項目)
	標準百科事典 全1巻 保育社 参031—4 (1万8千項目)

解説は簡潔で要を得ていて、上の事典的辞典とともに問題解決の第一の手がかりをつかむのに好適な事典です。なお後の2冊は図版も豊富です。

中 百 科	アポロ百科事典 全3巻 平凡社 参031—3 (5万7千項目)
	国民百科事典 全7巻 平凡社 参031—28 (1万7千, 大中小項目あり)
	世界原色百科事典 全8巻 小学館 全031—35 (5万5千項目)
これらは一般大衆向きの中型百科であって、簡潔な解説と詳しい重点とを織りまぜられており、問題解決のために第2のよい手がかり足がかりとなります。	

部 門 別	現代教養百科事典 全13巻 暁教育図書 参031—34 (索引項目約4万)
	玉川百科大事典 全31巻 誠文堂新光社 参031—36 (索引項目約18万)
	家庭百科大事典 全10巻 暁教育図書 参031—33
部門別で体系的系統的でありますので、問題の關係の事項や周辺や背景になることまで知ることができることで便利な事典であります。	

大 百 科	世界大百科事典 全24巻別巻2 平凡社 参031—22
	大日本百科事典 全19巻別巻2 小学館 参031—1
	ブリタニカ国際大百科事典 全20巻 (大項目) 全6巻 (小項目) 参031—38
	日本百科大事典 全20巻 小学館 参031—30
日本の文化のほどを表わす大百科であって大・中・小の項目を織りまぜて、専門的な要求にもこたえ得るようなくわしい解説もなされております。各百科にはそれぞれの長所・特徴がありますので、あわせて引いてみてください。	

6. 結 び

このように当館のレファレンス業務必携—スタッフ・マニュアルの作成を進めています。この必要を感じてひとつ作ってみようかと思いついたのが昭和48年の暮でありまして、以来ぼつぼつ研究にとりかかっていました。ところが、昭和50年9月17～18日鳥取県で行われました全国公共図書館参考事務研究集会に、たまたま出席せざるを得ない事情となり、第1分科会の研究協議の中で、現在進行中のこの仕事について語り、全国から参集された各館の中で、又はご存じよりの館の中で、中小図書館におけるレファレンスの研究を進めておられる館があったらぜひ提携協力したい。暗中模索の現在、同志同行の館を求めていることを申し述べましたところ、たまたま国会図書館の「参考書誌研究」編集部から中小図書館のレファレンス業務の実際として常滑図

書館の例をあげてみるよう勧められましたので、今ここに盲蛇におじず筆を執った次第であります。

作成の作業もまた半ばでありまして、具体相と申しましても完成物の抜粋ではなくサンプルでありまして、まだまだ多くの時間と努力を要することでありましょう。しかし、この稿を機縁としまして今後はピッチを上げ、本年12月末までには完成したい意向であります。完成の暁はおよそ400字詰め原稿用紙4～500枚の分量になるであります。でき上りましたら関係各方面のご高覧を仰ぎたいと思っています。

地方小都市の小図書館における未熟にして泥くさい拙稿を御高覧くださいませ、何か御教示御指導御高評を賜ることができましたら幸いこれに過ぎるものはありません。

(はら・ゆうぞう 常滑市立図書館長)